

全体研究のまとめ

1 成果

- 本校は4障がい種に対応しており、各学部で障がいや実態が多岐にわたる。そのため、抱えている課題は多様であるが、R4・5の全校研究テーマでもある「一人一人の豊かな学び」をめざすことが、本校の学校教育目標であるめざす幼児児童生徒像に近づくことにつながる。「一人一人の豊かな学び」を軸に、各学部で、課題や取り組みたいテーマをグループごとに設定して研究を進めたことで、具体的な取り組みとなり、研究を深めることにつながった。
- 各学部段階でのつながりを意識した系統的な指導や、学校での学びを日々の生活につなげていく指導など、学びの連続性やつながりについて実践し、考察を深めることができた。
- 全グループが授業提案をし、研究会を行うことで、新たな課題に気づいたり、新しい支援方法やアイデアを次の授業に生かしたりし、授業改善を進めていくことができた。
- 研究授業の日程を早い段階で決定して周知することで、計画的に他グループの授業の参観を促すことができた。
- 研究授業をオンライン配信したり、授業の様子を撮影しいつでも自由に視聴できるようにしたりすることで、校舎間の行き来をしなくても、参観することができた。
- 学部の課題や要望に特化した内容の学部研修会を実施し、オンラインで他校舎の職員が参加できるようにするなど工夫して開催することで、職員の研修の充実と専門性の向上のための場を設定することができた。

2 課題

- 各学部の取り組みとしては良かったが、4障がい種への対応という観点から、学校全体としての成果が見えにくく、取り組みのポイントが焦点化されていないという意見があがった。
- 各学部段階における系統的な指導について充実させることはできたが、小学部から高等部卒業まで12年間を見通した、系統性、連続性を意識した指導・支援について、今後深めていく必要がある。
- 校舎間を行き来して授業を見合えたのは一部の職員にとどまった。2校舎3分教室制という本校の実態から、授業の合間に他校舎に移動するのが困難な場合が多い。
- 他グループの授業研究会に参加したくても、その学部の課題や、児童生徒一人一人の実態を知らないと参加して発言しづらいという意見があがった。グループの実態を詳しく知らなくても、参加しやすい授業研究会のもち方を工夫する必要がある。
- 授業のビデオを視聴できるようにはしたが、多忙な中、45～50分近くあるビデオを観るのは大変なようだった。観てもらいたい部分を抜粋した動画をフォルダに上げるなどの工夫が必要である。